

みえ現場 de 県議会「ダイバーシティ社会の推進」実施概要

1 日時・場所 平成30年11月19日(月) 13時30分～15時30分
亀山市文化会館 2階 会議室

2 テーマ 「ダイバーシティ社会の推進」

<テーマの選定理由>

近年の著しく変化する社会経済環境の中で、今後も持続的な成長を継続していくため、多様性を受容する社会が求められています。

そこで、三重県議会では、一人ひとり違った個性や能力を持つ個人として尊重され、誰もが希望を持って自分らしく生きることができ、挑戦し参画・活躍できる社会であるダイバーシティ社会を推進していくことについて意見を聞き、今後の議会での議論に反映していきます。

3 参加者等

- ・各分野でダイバーシティ社会の推進に関わっている方 3人
- ・一般公募の方 3人
- ・県議会議員 16人 ○印は広聴広報会議委員

前田剛志 議長、

○前野和美 副議長(広聴広報会議座長)、○中瀬古初美 議員、

○吉川新 議員、○津村衛 議員、○後藤健一 議員、

○木津直樹 議員(教育警察常任委員長)、○田中祐治 議員、

○野口正 議員(医療保健子ども福祉病院常任委員長)

○岡野恵美 議員、○倉本崇弘 議員、○野村保夫 議員、

服部富男 議員(総務地域連携常任委員長)、

芳野正英 議員(戦略企画雇用経済常任委員長)、

彦坂公之 議員(環境生活農林水産常任委員会 副委員長)、

山内道明 議員(防災県土整備企業常任委員会 副委員長)

- ・傍聴議員 2人

日沖正信 議員、長田隆尚 議員

- ・傍聴者 12人

4 プログラム

- (1) 開会あいさつ(前田剛志議長)
- (2) 趣旨説明
- (3) 活動状況等の説明
- (4) 意見交換
- (5) 閉会あいさつ(前野和美副議長)

5 主な意見等

(現状・課題)

- ① 外国人の受入れは、私たちが最初、多文化共生の問題として一生懸命取り組んでいる間に、これは日本の人口の問題だと気付いて、とても危機感を持った。
- ② ヘルプマークについて、縦のつながりは随分、取り組んできていると思うが、横のつながりは、まだ足りていない状況である。
- ③ ヘルプマークを推進している立場なので広がってきていると思っていたが、企業での調査では10%ほどの人しか印象がないということも聞いている。やはり、横のつながりが必要で、今後もそこが一番の課題だと私たちも思っている。
- ④ 外国人の子どもたちが、とても多くなっている。その中で外国人のことにしても悩みがあるが、実はLGBTということもあり、実際はつながっていると思う。
- ⑤ 今、日本は人手不足で、多くの外国人の方に働いてもらうという考えは、本当にお互いが協力すれば、とても良いことだと思うが、来ていただくということは、それなりに環境を整えないといけない。お互いがそうして、Win-Winの関係で、安心できる環境でないと結局は離れてしまうことがあると思う。
- ⑥ 働きにくい環境をつくっているのは、上層部であったり、従業員かもしれないが、その中で企業や行政は、どのようにして安心した場を設けていくことができるか、横につなげていかないといけない。
- ⑦ ダイバーシティというのは、横のつながりをつくるという意味ではとても良い言葉だと思っている。それを上手く前向きに活用していかないといけない。
- ⑧ 多くの方に、自分たちが主催しているイベントなど、当事者が集まる現場に5分でも10分でも見に来ていただきたい。それで理解できなかったとしても、それで良いと思っている。皆さんと現場で話したり、見ただけで安心する。そういう現場というのが一番大事ではないかと思う。
- ⑨ 子どもたちが居やすい環境をどのようにつくるかというところは、男女共同参画社会とつながってくる。子どもに合わせた環境にどのようにするのかは、女性が働きやすい環境へつながる考え方だと思う。
- ⑩ 学校が避難場所となっていることや学校からのお知らせは、外国人の親は分からない。文章に振り仮名があれば、字は読めるが意味が分からない。言葉が分からないからトラブルが起こる。行きたくないのではなく、行きたいが、行っても意味が分からないから行かない。言葉が分かったら何でも参加したい。

(提案・要望)

- ① ヘルプマークを特に健常者の方に分かっていただくためにも、まずは周知していくという形で県にも行っていただいております、お願いもしている。
- ② もう少し連携ができればと確かに思うので、このような機会があったのはとてもうれしい。ダイバーシティの特別委員会をつくっていただいて、少しで

も議員の皆さんと意見交換をさせてもらえれば、進むのではないかと思います。

- ③ 縦のつながりではなく、横のつながりとして、クリエイティブな発想があるところが共に取り組んでいくような案や市・町で行っていることを意見交換する場が少しずつ増えていけば良い。
- ④ 知るという手段としては、やはり教育という場である。小さい時から、外国人やLGBTの人もいるということが、当たり前になるような教育をしていくべきである。
- ⑤ 外国人の方や、LGBTの方などに関することをどう教えていくのか。子どもたちが大人に教えるというようなことができないか。教育に力を入れていただきたいと思う。
- ⑥ 個人のクリニックの問診票には、英語と中国語、韓国語が置いてあるが、大きな病院は日本語しかない。大きな病院ほど待ち時間がかかるので、問診票くらいは他の人に頼まなくても、自分で書くことができるように翻訳して置いてもらえると、とても助かる。
- ⑦ 今はNPOや多文化共生の関係の予算が少なく、相当、厳しいということは感じているが、予算がなくても、もう少し現場に来て様子を見てもらえると良いと思う。
- ⑧ 県の予算がないのは分かるが、国が行っている様々なプログラムの情報を仕入れてほしいと思う。

6 会場アンケートで寄せられた主な意見、感想など

(参加者)

- ① タイムリーな意見交換ができた。
- ② 現場の声を聞く場として、続けていただけたらと思う。
- ③ もう少し議員との意見交換があれば良かったと思う。

(傍聴者)

- ① まさに多様な人々の意見を聞くことができた。
- ② 県議会を一度、傍聴したかったが、津まではなかなか行けなかったため、近い場所で行われて、とてもありがたかった。
- ③ ダイバーシティ（多様性）という内容であれば、障がい者の方にも参加してほしい。
- ④ 出席している議員全員に発言していただきたいかった。
- ⑤ 多少わかりにくかった。
- ⑥ 休憩を少し入れても良かったと思う。
- ⑦ バリアフリーの場所の方が良いと思う。
- ⑧ まだ開催していない市町で開催してほしい。
- ⑨ このような良いことを県・市町を通じて広く知らせるべきと思う。
- ⑩ もう少し多くの県民の方との話し合いも必要と考える。
- ⑪ 傍聴者が少ない。地域の（亀山など）の団体へのPRが必要だと思う。もっと多くの人々に聞いてほしい。